

○5 番（小川務君）

こんにちは。議長の許可をいただきまして、小川務が 9 月の定例会の一般質問をさせていただきます。

今回は、土庄町の観光振興についてお聞きしたいと思います。

ご承知のとおり、2025 年 4 月から 10 月にかけて大阪市此花区夢の島にて、いのち輝く未来社会のデザインをテーマに日本国際博覧会、いわゆる大阪・関西万博が開催されます。

世界 153 カ国が参加。予想来場者数は 2220 万人、海外からは 350 万人が訪れると予想され、経済波及効果は 2 兆円とされています。

海外パビリオンの建設準備の遅れ、資材高騰に伴う会場建設費の上振れ、人手不足など、さまざまな課題がありますが、政府与党は、予定通りの開催に向け準備を進めているところであります。

本町におきましても、今年 2 月に、万博を見据えた連携協定を高松市と神戸市、そして小豆島町と結んでおり、観光誘客の促進に向けた準備を進めていることと思います。

また、香川県においては 7 月に第 1 回香川県大阪・関西万博推進本部を開催しました。

そこでお伺いいたします。

関西万博を見据えた観光客の誘客について、これまでどのような取り組みを展開し、今後どのようにして、国内外の誘客につなげていくのかを具体的にお示しいただければと思います。

また、連携協定を結んだ 2 市 1 町、とりわけ隣町の小豆島町とは具体的にどのような協力を行う考えでしょうか。ご答弁をお願いします。

○議長（濱野良一君）

企画財政課長 佐伯浩二君。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

それでは大阪・関西万博の窓口の課として、答弁させていただきます。

小川議員のご質問にお答えいたします。

2025 年 4 月から 10 月にかけて開催される大阪・関西万博に向けて、香川県は、先日 9 月 6 日に第 1 回香川県大阪・関西万博推進協議会を開催し、知事を会長とする 27 名のメンバーの組織を立ち上げました。自治体からは、市長会会長の三豊市長と町村会会長の宇多津町長が参加しています。

一方、現在、大阪・関西万博で予定されている 9 つの参加メニューのうち、都道府県が主体となり市町村が共同参加する 2 つのメニュー、「自治体催事」と「テーマウィーク」につきましては、県内各市町の政策担当者を窓口として、参加に向けた情報共有を行っているところでございます。参加主体となる県は、

6月末に企画案を日本国際博覧会協会へ提出し、現在、同協会において、全国の出店状況等の調整が進められていると伺っております。参加した場合の県内市町の関わり方につきましては、現状ではまだ未定であり、具体的な取り組みは決定しておりません。

なお、小豆島での2025年に向けての誘客につきましても、今後、具体化されていく県の取り組み等も踏まえながら、協定を結んでいる広域の自治体や小豆島町との連携を密にしながら、本町としましても、今から具体策を積極的に検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5番（小川務君）

今、課長がおっしゃったように各自治体と情報共有しているということが分かりました。開催まで残り1年半となっております。やっぱり県の方が決まらなないと町としたら、ビジョンは決まらないということなののでしょうか。これ再度の質問なんですけど、よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

佐伯課長。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

おっしゃるとおり、県のその意向といたしますか、考え方というのがやはり優先されまして、それに基づいて、その後小豆島町とどうするか、周りの広域自治体ともそのような流れになっていこうかと思えます。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5番（小川務君）

分かりました。そしたら県の方が決まりましたら、土庄町、小豆島町連携して、誘客につなげていただければなと思いますので、よろしくお願いします。

今回の万博は、国際博覧会としては初めて「海の万博」と言われております。海を活用した歴史や海ごみの現状、海が開く未来などを学ぶ多面的なアプローチによるプログラムを作成してみたいはいかがでしょうか。

これは大阪・関西万博では、地球環境についての課題を世界で共有する目的の一つとしており、海ごみ拾い、いわゆるSDGsと親和性が高いものだと思いますので、土庄町として、こういった取り組みを一つ考えてみてはいかがでしょうか。

それでは、次の質問に入らせてもらいます。

関西万博と同じ年なんですけども3年に1度の瀬戸内国際芸術祭が開催されます。次回より、さぬき市、東かがわ市、宇多津町も新たに開催地として加わ

ることです。

瀬戸芸と万博の相乗効果を見据えた観光振興、瀬戸芸の開催市町との連携につきまして、お考えをお聞かせください。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

小川議員の質問にお答えいたします。

観光の方からですが、**2023** 年以降、**JR** 高松駅の駅ビルであったり、あるいはサンポート高松に新県立体育館、また、徳島文理大学香川キャンパスも整備される中、**2025** 年には、瀬戸内国際芸術祭 **2025** や、また大阪・関西万博も開催されることが決定しております。

そのような中でですね、**2025** 年を見据えた取り組みということで、いわゆる高付加価値化事業というのが、昨年度に引き続き採択されました。国の補助等を有効に活用しながら、島内宿泊事業者、また観光事業者などの施設改修であったり、あるいは二次交通の実証事業、また、**DX** を活用した観光振興施策をですね、島内関係者が一丸となりまして、小豆島町とともに、今チーム小豆島として取り組んでいるところであります。

また、今年度から長年の課題でありました観光協会の窓口の一本化が実現しております。

今後の、また観光政策に欠かせない観光ビジョンも、行政の垣根を越えて、小豆島町とともに策定中でありまして、小豆島への観光へのさらなる推進力としたいというふうに考えているところです。

また、関西方面からの誘客を見据えて、連携協定を締結しております神戸市と高松市、また小豆島町ですね、この 3 つが連携しまして、**2025** 年に向けた観光施策を今、共同で開発しているところであります。

近年、土庄町はアニメを活用したまちづくりによりまして、いわゆる多くの聖地巡礼のファンでにぎわいを見せております。

また、世界から注目を集めております赤嶽ですね、大部のほうの、クライミングの聖地としても、認知度が格段に向上しております。

また、産学官連携によります食を通じた町の発信も現在積極的に行っており、併せてですね、歴史ある小豆島特産の素麺などの地場製品の **PR** にも努めているところであります。

こうした地域の強みであったり、特色を生かした取り組みを推進していくとともにですね、新たな観光資源を掘り起こしながら、小豆島町、また他自治体との連携を密にしながら、来たる **2025** 年に向けて取り組んでまいりたいというふうに今考えているところです。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

施設の改修等、小豆島一体として取り組んでることはよく分かりました。

豊島も今現在、多くの観光客の方、外国人の方も来ていますので、そちらの PR の方もぜひお願いしたいと思います。

関連市町と連携することを図ることはもちろんですが、他の市町と比べて見劣りしない観光振興も求められてます。

先ほど課長がおっしゃいましたように、8 月にありました小豆島まつりでは、からかい上手の高木さんファンの方、多く来ていただきました。これは、ほかの自治体になく小豆島・豊島の大切な財産だと思います。

また、小豆島瀬戸内の景色を楽しみながら、小豆島お遍路 88 ヶ所めぐりを堪能できるように PR することもいいのかなと思います。

今までも、観光振興に力を入れているようですので、ほかの自治体に負けなようにお願いして、次の質問に移りたいと思います。

続きまして、観光客の交通、宿泊対策についてお伺いします。

万博と瀬戸芸で観光客の増加が見込まれることから、宿泊、飲食、交通について十分な受け入れ体制を整えることが求められます。

しかし、土庄町では、ホテルの廃業が相次ぎ、また新規のホテルは建設予定ですが、いつ具体的にオープンするかまだわかりません。また、飲食店も不足しており、現状では不十分だと言わざるをえません。

観光客の受け入れ体制整備に向けて、町のご所見をお聞かせください。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

では、小川議員の 2 点目のご質問にお答えいたします。

現在、先ほどちょっと重複しますが、**2025 年**を見据えた中で、小豆島では行政の垣根を越えてですね、関係者が一丸となりまして、受け入れ態勢、宿泊施設などを含めますけれども、などの整備に努めておるところであります。宿泊施設、また観光における交通などの整備におきましては、先ほどと重複しますが、いわゆる「高付加価値化事業」の中で、宿泊事業者あるいは観光事業者などの施設の改修を今、やっております。それから、2 次交通の実証実験もやりますし、DX を活用した観光施策というところにも鋭意取り組んでいくということになっております。また、民間事業者においては、電動自転車などの電動モビリティも取り入れるなど、観光客の「足」の確保にも努めているところもあります。

雇用の面につきましては、厚生労働省の補助事業であります「地域雇用活性化推進事業」の採択を受けまして、島内企業と連携しながら、不足する人材確保のために小豆島全域で雇用の底上げを行っているところであります。

現在、両町が一緒になって進めております「持続可能な観光推進事業」の目指すべき姿に、いわゆる「旅行者」も「事業者」も「地域住民」も、皆が WinWin となる考え方、いわゆる「三方よし」という考え方が掲げられています。これまでも行政だけでなく事業者と、また地域とともに取り組むことで、徐々に意識も醸成されてきている中でありますが、こういった考えが地域全体に広がっていくように、小豆島町とともにですね、本事業を進めていくことが、観光客への「おもてなし」にも繋がっていくと考えております。ひいてはそれが、「持続可能な観光地」、「選ばれる観光地」につながっていくものと考えておりますので、引き続き、ハード・ソフト両面から、来たるべき 2025 年に向けまして、小豆島町とともにですね、観光客を迎え入れる体制を努めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

施設の改修等につきましては、補助金が活用して、ホテルも綺麗になったかなと思うんですけども、そこで働く方ですね。そういう方の家ですね、空き家とかがなく今、多くの問題があると思うんですけども、そこで宿泊施設等として空き家の活用が考えられないかなと思っています。その場合に、空き家内のごみの片付けですね、こういったところが大きなネックとなっています。ホテルのスタッフ不足、また島外から来た外国人の方の借家の不足が、不足している現状があります。自治体によっては、空き家の所有者に廃棄物の処理費用を補助し、空き家バンク等につなげている自治体もあります。近隣では、岡山市が令和 5 年 4 月から 20 万円を上限に処理費用の一部を補助しているようです。このように、土庄町においても、制度を構築し、観光施設、あるいは観光施設等のスタッフの確保に向けた取り組みをする考えはありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

ありがとうございます。

ご意見確かにごもつもの話もありまして、もう観光というのも最近ですね、いわゆる観光分野だけじゃなくて、その環境の分野もそうですし、一次産業もそうです。

あるいは、空き家というものもすべてがこう関連していきますので、そういつ

た観点のもとにですね、またこういった関係各課と相談しながら、そのごみの処理の問題であつたり、あるいは空き家の利用ですか、そういったところを含めてですね、また再度検討させていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

宿泊施設を改善する不足する方法の一つとして、民泊あるいは空き家を綺麗にして、スタッフの方に来ていただく。そして観光客を迎え入れるために、環境づくりが大切かなと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、次の質問です。

新型コロナによる行動制限がなくなり外国から旅行客が増えている一方で、観光地が、旅行客をさばききれないオーバーツーリズムが問題となっています。京都では市民がバスに乗りきれない状態が発生しており、また商店街の錦市場では、ごみのポイ捨て問題となっています。

そこでお尋ねします。

午前中に福本達雄議員の方から一般質問でありましたが、来年の 4 月改善基準告示の改正により、バスの方に大きな影響を受けると予想されております。

オーバーツーリズムにより、町民の足に影響が出ないよう、小豆島オーリーブバスや各フェリー会社を始めとした交通機関とどのように連携をとっていく考えでしょうか。また、

○議長（濱野良一君）

小川議員、通告にありますか。

○5 番（小川務君）

ありますよ。はい。観光交通のところにあります。具体的に、交通です。交通の部分でやってます。

○議長（濱野良一君）

2 番の観光の、

○5 番（小川務君）

観光交通や宿泊やですね。

○議長（濱野良一君）

観光客の交通方法というところの関連ということで。

○5 番（小川務君）

はい、そうです。観光客が、はい。

○議長（濱野良一君）

はい、続けてください。

○5 番（小川務君）

大丈夫ですか。

○議長（濱野良一君）

はい。

○5 番（小川務君）

観光客の方のオーバーツーリズムにより、住民の生活への影響を最小限に食い止めるため、どのような対策をお考えでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（濱野良一君）

佐伯課長。

○企画財政課長（佐伯浩二君）

それでは、企画財政課から交通政策の面で答弁させていただきます。

毎年 5 月の連休とかもそうですが、やはりオリーブバスにとっては、やっぱり臨時便を走らせる場合は多々あるかと思います。

そういうことは、その都度その都度、考えながらやっております。バス会社の方で考えていただけてますが、もうそういうふうな先がわかっているものについては、先ほども言いました、地域公共交通協議会の中で、もう議題として挙げてですね、その中でこういう、大体どの程度の観光客が予想されて、どれぐらいの臨時便がとかいうようなところも、あらかじめちょっと検討して、それで進めていきたいと、そのように考えております、以上です。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

瀬戸芸と万博が重なって、住民生活の足に影響が出ないようにご協力願えればと思いますのでよろしくお願いします。

最後に、万博の教育への活用について質問します。

大阪・関西万博のコンセプトは、「ピープルズ リビングラボ、万博を（未来社会の実験場）」と位置付け、AI、キャッシュレス、生体認証システム、多言語システムの実装などが想定されています。

先日、私も神戸国際展示場に足を運び、万博の理事の講演を聞いてまいりました。

実物の 1 人乗りの空飛ぶ車が展示されていたり、VR で空を飛ぶ車を運転して、大阪市内を飛行してまいりました。

将来、個人が空飛ぶ車を運転することは想像つきませんが、50 年前の 1970 年に開催された万博では、歩く歩道、リニアモーターカーなどが紹介されました。

最先端技術とイノベーションに触れる絶好の機会と考えますが、万博を地域

の若者や学生への教育に活用する予定はありますでしょうか。よろしく願いします。

○議長（濱野良一君）

教育総務課長 堀康晴君。

○教育総務課長（堀康晴君）

小川議員のご質問にお答えいたします。

教育総務課からは、教育との関連につきまして、お答えをいたします。

大阪・関西万博は 150 の国、地域と 25 の国際機関が参加することから、世界中の多様な文化・価値観に触れ、多様性溢れる世界を理解するとともに、日本の魅力を再発見することが可能です。また、生き方や価値観の多様化する国際社会の在り方についても考えることができます。

万博では未来の技術や商品が集まり、生活が便利になる「きっかけ」づくりをしています。万博会場全体が未来社会の実験場となり、空飛ぶクルマをはじめ最先端技術を体験することが可能とのことです。日本館では、SDGs に代表される社会課題を「自分ごと」として認識する契機となるような展示、体験が提供され、万博会場内の生ごみを利用したバイオガス発電、日本の先端的な CO2 リサイクル技術等を活用し、日本館で一つの循環を創出、持続可能な社会に向けた来場者の行動変容を促すものになります。

このような世界各国から英知が集結する大阪・関西万博は子どもたちの興味、関心や可能性を伸ばす良い機会であると認識をしております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

課長がおっしゃったように世界を理解する大変素晴らしい機会だと思います。過去の実績では、万博で学校教育旅行もあります。修学旅行、校外学習、遠足などもあり、子どもたちにとって、さまざまな文化、価値観に触れることのできる最高の機会になると思いますが、土庄町としては、子どもたちにそういった場を提供するという考えはありますでしょうか。

○議長（濱野良一君）

堀課長。

○教育総務課長（堀康晴君）

小川議員の再質問にお答えいたします。

教育現場、学校等ときちんと協議をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

小川務君。

○5 番（小川務君）

ぜひ、子どもたちに広い視野を持てるような機会のある場を与えていただければと思いますのでよろしくお願いします。

また、先ほどお話しましたが今回の万博、海の万博と言われているので、子どもたちと一緒に海の歴史、海ごみ（拾い）をして、環境啓発をしてみたいかがでしょうか。

この大きな潮流に、土庄町が乗り遅れることがないようにぜひ進んでいただきたいなと思います。私からの一般質問は以上となります。ありがとうございます。